

請願を採択	—	2 ▶ 3
想定外は起こる	—	4
8議員が一般質問	—	5 ▶ 12
モニター募集	—	13
新春コンサート		
勝中生活躍	—	14



No. 58

2012. 1. 30発行

安心して住みよい町に！

議会だより

カウラ

人形文化交流館補修・改修

請願を採択、可決

一般会計補正予算 3,522万円

●●●●主なもの●●●●

- 町単農業振興事業補助金 400万円
- 農業振興備品購入費 200万円
(オレンジジュースマシン)
- 立川災害関連工事 300万円
- 農業施設災害復旧費 1,869万円

12月
定例会

大幅アップ。農業振興費

12月定例会は7日から15日まで開かれ、条例の改正6件、工事変更請負契約2件、23年度の補正予算、公の施設の指定管理者の指定などが提案され可決しました。

また、追加議案として教育委員会委員の任命、意見書の提出、22年度決算の認定、請願の採択など可決しました。

一般質問には8議員が、町の政策などを問いました。

一般会計補正予算

今回の一般会計の補正で「町単農業振興事業補助金」が400万円。当初の700万円を加え11年ぶりに1000万円を超えた。

請願、可決

今議会の冒頭に「人形文化交流館の屋根・外壁等の補修、改修に対し町の支援を求める請願」が提案された。

所管の委員会に付託され「採択」となり、15日の本会議に再提案、全員一致で可決しました。

意見書を可決

議員提出の「医療従事者の大幅な増員と夜勤改善の実現を求める意見書」を可決しました。

22年度各会計決算を認定

9月定例会において、総務産建常任委員会に付託されていた22年度各会計決算について、「留意すべき事項」を付けて認定すべきと委員長から報告があり、全員一致で認定した。

総務・産業運営常任委員会

12月定例会に向けて委員会を11月24日に開催し、補正予算、条例の一部改正などを審議しました。

があった。

町外の人がほとんど利用しない農村環境改善センターでは、特産品のみかんの販売促進にはつながらない。道の駅などに設置を検討してはどうか。

どこに置くの？

ジュースマシン

買ったみかんを自分で簡単にジュースができる「ジュースマシン」の購入費200万円が提案された。

その置き場所について、農村環境改善センターに置くと説明



道の駅に設置されるジュースマシン

「請願」を採択

人形文化交流館

補修等

12月定例会の開会日冒頭に提案され、委員会に付託されていた「人形文化交流館の屋根・外壁等の補修、改修に対し町の支援を求める請願」について、提出者の代表であるNPO法人阿

波藤浦井戸鑑塾

稲井稔理事長に参考人として出席を求め、趣旨説明を受け審議し「採択」としました。

文教厚生常任委員会

11月28日に開催し、補正予算、条例の一部改正などを審議しました。

医療費無料

中学校卒業まで

一般質問において再三質問のあった「勝浦町乳幼児等医療費の助成に関する条例」の一部改正について説明があり、現在の小学生までの医療費無料化を中学校卒業まで拡大するもので、審議の結果、定例会に提案することを承認。

公の施設

民間で管理

「勝浦町の公の施設の指定管理条例」の規定に基づき、公募していた町民体育館はカーフレンズに、住民福祉センター、子育て交流支援センター（沼江）は社会福祉協議会に管理を委託すると説明があり承認した。

年頭あいさつ



町民の幸せを



議長 大西 一司

日本は長引く不況から脱却できず、そのうえ大震災や豪雨災害に対する防災対策は待ったなしです。まさに政治の力が必要とされています。

今後、議会が一丸となって町民の幸せのため頑張ってくださいと思います。

本年もよろしく願います。
勝浦町議会

任期満了に伴う教育委員会委員に
西田 誠 氏(柵野)を
任命することに同意しました



土石流に直撃された老人ホーム

総務産建常任委員会

10月18日～20日

想定外は起る！

山口県防府市では平成21年に豪雨による土石流が発生し、特別養護老人ホームが直撃され、死者5人、行方不明者9人となる大惨事となった。

防府市は地形的には瀬戸内気候で雨が少なく、急しゅんな山もない。

防災対策は地震による津波被害を想定しており、過去の事例から

も土石流は想定していなかったため、情報伝達体制に不備が生じ、対応が後手になってしまった。

勝浦川では、今後、上流部で今までに経験のない豪雨に見舞われる可能性があり、堤防決壊や土砂災害に対して、的確で迅速な対応が求められる。

自然を生かした

町づくり

大分県九重町は平成18年に約20億円の事業費をかけ、日本一の吊り橋を完成させ、温泉施設と合わせた観光客は600万人を超えるようになった。

しかし、ほとんどが通過客のため自然環境を守る事業に力を注ぎ、グリーンツーリズムや「トキが住める豊かなたんぼ事業」に民間基金を活用し、子どもを中心に展開して宿泊客の増加に取り組んでいる。

勝浦町でも「道の駅」や産直市と合わせて、豊かな自然をアピールして行く必要がある。



日本一の“夢”吊り橋

文教厚生常任委員会

11月16日～18日

「エコ」対策を学ぶ

京都「京エコロジーセンター」

環境学習と環境保全活動の拠点として、持続可能な地域社会の実現に向けその活動を支援・連携し、成果を発信する場となることをめざし活動している施設である。

未来へもきれいな地球を引き継ぐことができるような社会を実現するために、身近なゴミ問題から幅広い視点での環境活動を実践できるよう、さらに環境意識を高めて行かなければならない。

安心して暮らせるために

石川県津幡町 「地域包括支援センター」

「総合相談から支え合い問題解決のできる地域づくりへ」と地域包括支援センターの寺本紀子係長から説明を受けた。

安心して安全な生活が送ることのできる仕組みづくりは、地域を巻き込む事がいかに重要であるか理解できた。

地域と行政が協働して課題解決し、生活を支える地域資源の把握や発見を早急に行い、地域でのネットワークの取り組みと活用が急務であると考え、そのためには行政の支援体制の強化が必要である。



1日の生活水量は1人ペットボトル478本



河野道雄議員

老朽化した橋の改良を

調査し対応して行く（町長）



15m未満の橋も改良を（坂本）

問

町内には多くの橋が架けられているが、道路と一体となって生活や防災面でも重要な施設である。老朽化により、補強や改

良が必要なものが見受けられるが、現状と対策は、

答 産業建設課長

町内に架橋は245橋あり、このうち161橋は建設

家族の絆を強める 3世代同居に支援を

問

千葉市は、今年度から高齢者の孤立化を防ぐと共に、家族の絆を強めるために親、子、孫の3世代が同居する際にかかる費用の一部を支援する「3世代同居等支援事業」に取り組んでいる。

3世代が同居することで、介護や育児支援の面でも役立ち、人口増につながることも期待できる。勝浦町でもこの施策を導入してはどうか。

答 福祉課長

3世代同居は高齢者の孤立防止や家族同士の絆を深め、介護や育児の面からも効果が期待できるが、行政がどこまで立ち入るべきかを検討する必要がある。

答 町長

勝浦町でも核家族化が進んでいるが、3世代同居を支援することが、高齢者の孤立防止や家族の絆の再生が図れる事業かどうか、今後、効果を見極めながら検討したい。

後40年以上を経過している。橋の寿命は40年から50年と言われているので、15m以上の橋については平成21年度に「橋梁長寿命化計画」を策定し、翌年度から改良を実施している。一部を残し5年程度で完了する予定である。

問

15m未満の橋についても早急に調査を実施し、老朽化している橋は改良を行う必要があるのではないかと。

答 町長

15m未満の橋についても通行上危険な橋もあるので、必要性を見ながら調査し対応して行く。





国清 一治 議員

厳しい農業

プロによる再生を

効率的な執行体制に（町長）

問

町の基幹産業である農業は、担い手や後継者不足などで耕作放棄地が増えるなど厳しい状況が続いており、「打つ手が見えない農業政策」と再三質問し提案してきたが、今の町の組織体制では対応できない。加えて県の指導職員の大幅減や、果樹研究所の撤退など厳しさは増すばかりである。

今こそ組織体制を見直し、勝浦農業のプロの知識や経験を活かしたプロジェクトチームを立ち上げ、将来に向けての展望を開く時である。

答 町長

今までの取り組みは十分でないが、今後も検討して行きたい。

組織体制については、効率的な課の再編に向けて検討したい。

運動公園 北側通路の舗装を

予算化を検討（教育長）

問

運動公園を一番多く利用しているのが朝夕のジョギングである。しかし、雨が降ると北側通路が数日間使えない状況

にあり、特に台風後は土砂の整地などで1カ月は使えない。

常時利用できる運動公園として通路の舗装を再三要望してきたが、町は河川法の関係で県から許可がおりないと答えてきた。

9月に議員全員が県に出向き、町の課題等を要望し、許可を求めた際に県からは

答 教育長

町の「整備計画書」を提出するようにとの答であった。早急に県と協議し許可を受け、新年度で予算化を。県の許可が下りるのであれば、舗装に向けて経費等検討したい。

問

日本に春を呼ぶ「ビッグひな祭り」も第24回を迎えるが、人形文化交流館の老朽化が進み、補修・改修が急がれる。

町としてどのように評価し、今後どう発展させようとしているのか。

答 町長

「ビッグひな祭り」は今や徳島県を代表する春のイベントである。

人形文化交流館は道の駅よってネ市ともに町の産業・文化の拠点施設として、地域活性化の起爆剤として発展させたい。



雨が降れば通行できない北側通路

ビッグひな祭り

県を代表するイベントに

TPP参加

町への影響は

農業に壊滅的な打撃 (町長)

山野忠男 議員



問

政府はTPP（環太平洋連携協定）の

参加に向けて協議をすることを表明したが、全国の農業団体などが猛反対をしている。参加した場合、関税撤廃や貿易の自由化などで町への影響と今後の対応は、

答 町長

協定に参加することに

すると農林水産業は壊滅的な打撃を受ける。全国町村会でも反対の決議をしており、

町としても今後の動向を注視しながら対応したい。

問

農薬解禁による残留農薬の基準で、学校給食の安全・安心が守れるか。

また、安価な農畜産品の流入対策は。

答 教育委員会事務局長

学校給食センターでは残留農薬の検査を実施する。

答 産業建設課長

町の農産物のPRなど農業振興をさらに進めたい。

問

日本の国民皆保険はどうなるのか。また、医療及び医療器機や医薬品の使用基準は。

答 総務税務課長

アメリカの混合診療制度は受け入れがたく、現制度を堅持するよう求めて行く。

答 病院事務局長

市場原理は導入せず、医療費を含む適正な社会保障費を確保することが重要である。

問

外国人の転入増加など登録に問題は。

答 住民課長

外国人の転入や

証明書の請求など、混乱が起きないように対応したい。

勝浦病院に透析医療の開設を

現状では難しい (町長)

問

徳島県は糖尿病ワーストワンであり、

答 町長

必要性は認められているが、

勝浦病院での開設は施設整備や人的体制などからみて、現状では難しい。

今後、引き続き調査研究したい。

町道「与川内木小屋線」の改良を

問

与川内木小屋線は、入口付近が急傾斜で垂直に立ったコンクリート壁があり、スリップ事故などが多発している。早急な改良が必要である。

答 産業建設課長

こう配が35度くらいあり、改良には多大の工事と経費が必要となる。

答 町長

入口付近の3トンブロックの改修には多額の費用が必要となる。今後、う回路などの整備を検討する。



急こう配で危険な町道



美馬友子議員

地域包括支援センター 支援強化を

町として支援して行きたい（町長）

問

年をとっても住みなれた土地で安心して暮らせるためにも、高齢者を支える福祉対策は重要で、期待される事業である。町全体で高齢者を見守るためには、「地域包括支援センター」に対し、行政の支援体制の強化が必要と考えられるが、今後の取り組みは。

答 町長

「地域包括支援センター」の事業は町から勝寿会に委託し、基本の職員数は3人であるが、現在、職員2人と緊急雇用対策を利用し、補助員1人を来年の3月まで雇用している。

今後、町としても支援して行きたい。

問

弱者を守るための地域ネットワークづくりの取り組みは。

答 福祉課長

区長会や婦人会、老人会、愛育班、民生児童委員会等でその都度説明している。

町民体育祭の 復活を

復活を

問

今後、頼りになるのは地域力である。年齢層の違った住民が集まり、楽しく1日を過ごすことができる町民体育祭は地域コミュニティの原点である。

答 町長

8月には勝浦中学校が完成する予定であり、自然と共に呼吸するデザイン、町と一体化のある学校を町民の皆さんに見てもらえる良い機会である。ぜひ町民体育祭復活をしては。

今後、町としても支援して行きたい。

勝浦中学校の新校舎は皆に見てもらいたいと思ういはある。

多くの人の意見も聞いて、町民体育祭復活については今後、検討して行く。

学校などに雨水タンクの設置を

問

水資源を身近で大切な問題としてとらえ、意識を高めるために学校などに雨水タンクを設置しては。

答 町長

中学校の改築に当たり、省資源、省エネルギーのため、校舎下に雨水の再利用貯留槽の整備を計画している。

問

他県では雨水タンクの住宅設置に助成金が交付されているが、町の考えは。

答 町長

必要性も含め検討したい。



水資源の有効活用を

新年度予算

どうなる地方交付税

今年度並みは確保したい(総務課長)

部 公一 議員



問 勝浦町の人口は5年前の国勢調査より537人減少している。国の中期財政フレームでは地方交付税は減額されないようだが、新年度の見通しは。

答 総務課長

人口減で約1億円の減額になるが、単位費用別の部分でかなりの額が保障されるので、今年度並みは確保できる見通しである。

問 国から保育所運営費の補助金が廃止される案が出ているが、そうなれば民営化のメリットがなくなるのではないか。

答 福祉課長

現時点で県には厚生労働省からの情報が無い。新年度においても従来通りの予算要求をしたい。

答 町長

国の制度変更により、地方の努力がムダにならないよう声を上げて行く。

問

町長は、人口減抑制策の若者定住対策として新年度に住環境整備予算を計上すると言っているが、具体的内容は。

答 町長

町有地の宅地活用や、民間の活力導入への補助などで定住促進を図れるよう、調査研究している段階である。

国民健康保険

高額療養費の負担軽減を

問

医療の高度化や新薬の開発により、高

額な医療費を負担している患者が増えているが、軽減措置が必要でないか。

答 総務課長

国では低所得者に対して負担軽減が検討されているが、財源が確保されていないので不透明である。町としては、基金や繰越金の有効活用など検討したい。

問

国保の単年度収支が2年連続で赤字になっている。将来的な課題に備え、財政基盤を安定させるために緩やかな改定が必要でないか。

答 町長

世の中の経済状態や国保財政を見極めながら、負担しやすい範囲で緩やかに上げて行きたい。

問

今年は大型台風の襲来が多く、その後の天候不順で工事の遅れが心配されたが、予定通り完成できるのか。

答 教育委員会事務局長

11月末の工事進捗率は計画予定を上回っており、平成24年1月末には竣工の見通しである。

問

校舎は見違えるほど美しくなったが、玄関前の舗装の傷みが目立つ。改修すべきでは。

答 教育長

財政担当と協議をして検討したい。

玄関前の舗装を

横瀬小学校の耐震・改修工事



傷みが目立つ玄関前

ポリオ（小児まひ）

不活化ワクチンの導入を

厚労省の開発を待ちたい（町長）

井出美智子議員



問

先進国で日本だけが不活化ワクチンの切り替えが行われていない。生ワクチンによる免疫獲得率の低い昭和50年、51年生まれ世代が親となる現在、極めて差し迫った状況にある。

生ワクチンは接種した本人が発病する可能性や2次感染の危険がある。

親世代に2次感染予防のための再接種に、不活化ワ

クチンの補助をしたらどうか。

答 福祉課長

勝浦町において、現在まで2次感染について聞いていない。

答 町長

任意接種は万が一健康被害が出た場合、救済制度がないので勧めない。厚労省も不活化ワクチンの開発を進めているので、それを待ちたい。

放射能汚染 安全確認を

問

名古屋大学の国際研究チームの発表によれば、原発事故により北海道から中国、四国地方まで放射能汚染が拡大しており、特に四国山地の南側の汚染濃度が高くなっている。

子育て世代には不安が大きいため、安全確認のために町で放射能測定器

を購入してはどうか。また、専門家による講演会を開催してはどうか。

答 住民課長

文科省の委託を受けて県が測定しているのので、異常が報告された時点で対応して行きたい。

答 町長

測定器の購入は予定していません。専門家による講演会は今後の検討課題としたい。



放射能の測定を

問

「JAかいふ」では高齢者世帯を対象に、農作物の集荷と買い物支援を同時に行うサービスの実証実験に取り組んでいる。

毎週、火曜日と土曜日に集荷した品を産直市に出荷し、買い物を自宅まで配達する事業である。

答 副町長

勝浦町も交通弱者対策として取り組んではどうか。県はビジネスとして高年齢が進む集落の活性化モデルとして、他の地域にも広げる考えなので結果を待ちたい。

交通弱者対策を





森本 守議員

沼江バイパス

第3期工事は

早期着工に向け予算確保したい（町長）



早期着工を望む第3期工事

答 産業建設課長

2系統以上の安全な道路の整備が必要であり、地元の要望に対し、県は残る区間は「現道拡幅が良い」との認識である。町はどう対応するのか。

また、問題点は何か。

11月24日に沼江地区臨時

問

どんな災害にも孤立しないためには、

総会が開かれ、地区の意見を集約した。生活の安全を確保するために、当初計画通りのバイパスを整備して欲しいとの要望が強く、推進協議会が設立された。

県はバイパス道路にする」と事業費が数倍に膨らみ、工事期間も長くなり開通が遅れる心配があるとのことである。

答 町長

2期工事に ついては今年度中に完成する。残る区間については沼江地区の推進協議会と共に、早期着工に向けて予算確保のため、県に要望する。

差、水利権の問題がある。県によると引き続き候補地情報を募集している。今後、適地があれば県に情報を提供したい。

問

環境学習会では、メリットのある話をする効果が高いのではないか。

問

11月16日、徳島新聞に

太陽光や風力、小水力などの自然エネルギー発電施設を設置候補地27カ所が公表されたが、勝浦町は入っていない。候補地はないのか。

答 副町長

いずれも土地所有者の了解が大前提であり、太陽光発電は出力10000キロワットに対し1・5ヘクタールの広い土地が必要で、風力発電は年間通じて風が吹き、近くに送電線があることと、羽根の移送に幅5メートル以上の道路が必要である。

小水力発電は水量や高低

答 町長

「環境町民のつどい」で低炭素社会に向けての講演など考えて行きたい。

答 教育長

知識のみでなく実行できる子供を育成することが大切であり、発達段階に応じ教科の中で現在進められている。

また、学校版ISOというのがあり、3校とも近く認定される。中学校では新校舎に太陽光発電や雨水利用システムが付けられる。

■その他の質問

○文化活動の活性化について



川端雅夫議員

鳥獣害対策

電気さくの予算を

その都度協議したい（町長）



鳥獣害防止に有効な電気さく

問

鳥獣害対策については電気さくが一番有効と思うが、今までの申請件数と総延長は。

今後は設置面積を増やすため、電気さくのための予算計上を。

また、猟友会員も高齢化しており、新たな会員の育成に努めるべきではないか。

答 産業建設課長

23年度までの申請件数は

8件で約4000m、受益面積は2・5haである。

答 町長

電気さくの予算について

は議会にも諮り、その都度協議して行きたい。

猟友会員の育成について

は免許に対する助成もあるが、会員が増えるような方があれば町としても対応して行きたい。

住民会議の開催を

高校生のバス通学に補助を

問

勝浦中学校から高校へ進学する場合、バス代、汽車賃等を合わせ年間どれぐらいの経費が必要か。

また、子育て支援策と合わせて定住対策促進のためにもバス通学に対しての補助をしてはどうか。

答

教育委員会事務局長

徳島市へは21人で404万円。小松島市には47人で748万円。阿南市へ47人で1042万円。年間2200万円が必要である。

答 町長

財政状況から見て補助は難しい。

今後、人口減少の抑制を最重要課題とし一生懸命取り組んで行きたい。

問

町長は今までに「出前講座」を開設していたが、いつの間にか無くなっている。住民と共に考え歩んでいく行政推進のため、町内で20人位の代表を選任し、それぞれの課題に対して提言してもらえような住民会議を開催しては

また、このような先進地事例はないのか。

答 副町長

栃木県の壬生町で平

成17年に30人で住民会議を設置している。保健福祉課、教育文化、産業振興の3グループに分かれ提言があり、

町の総合計画に反映している。

答 町長

議員も住民で要望、意見を聞き議会の場で質問している。

また、住民会議という組織は形としては非常にいいが、行政にもそれなりの課題をいつも提供していかなくてはならないこともあり、十分検討する時間が必要である。



安心の防災 ②

すさまじい土石流



土石流が起きた那智の滝

9月の台風12号は近畿地方を直撃し和歌山県を中心に大災害をもたらし、全国勝浦ネットワークで交流を深めている那智勝浦町でも甚大な災害が発生した。

12月5日に防災対策特別委員会のメンバー6人が、町内の団体や個人からの義援金50万円を預かり、那智勝浦町を訪れ町長に手渡した。その後、議会事務局の案内で災害現場を視察した。

現地は山腹崩壊による土石流などが山間地全域に渡り発生し、河川には大きな岩石などがゴロゴロ。ほと

んど手付かずの状況で復興不可能な箇所も多く、さらに二次災害が心配されるなどすさまじい災害を目の当たりにした。

勝浦町においても昨年の7月に立川地区において大規模な山腹崩壊が発生し避難勧告が出された。現在、災害復旧に取り組んでいるが、二次災害の心配もある。那智勝浦の災害は他人事ではなく、本町の山間地では未曽有の豪雨時に起こりうる災害を想定し、今後の対策が急がれる。



山腹崩壊の起きた立川

那智勝浦町の被害状況

人的被害として、死者27人、行方不明1人。家屋の被害は全壊103棟、大規模半壊105棟、半壊800棟、一部破損(床上浸水)440棟。防災無線被害13局など。

モニター募集

議会だより

議会では、皆さんの意見や提言を聞かさせていただくために「議会だより」のモニターを募集します。

- 応募資格**
- ① 勝浦町在住で18歳以上の方。
 - ② 氏名を公表できる方。

応募方法 電話またはFAXにて議会事務局まで
TEL 42-2513 FAX 42-3028

切 平成24年2月20日まで

- 内容**
- ① 任期は1年とし、再任をさまたげない。
 - ② 定員は10人。(多数の場合は抽選)
 - ③ 年1回程度委員会を開催する。
 - ④ 「議会だより」に意見や提言を掲載。
 - ⑤ 報酬は規定により支払い。

あなたの意見を!



ゴっついぞ! 勝中クラブ活動



音楽部 部長の思い

部長 瀬戸 葵さん

私たちは部員15人で、放課後一生懸命練習を重ねています。

新春コンサートでは、音楽を仲間と共に味わい楽しみ、心を込めて歌いました。

今のメンバーで2月5日に初のコンクールがあるので、全員笑顔で終われるようにしたいです。

音楽部 輝かしい活動内容

- 徳島県合唱アンサンブルコンテスト 銀賞
- 全日本合唱コンクール徳島県大会 銅賞
- NHK全国学校音楽コンクール徳島県大会出場

指導方針

音楽を愛好する心とともに、美しいと感じる感性、豊かな情操の育成をめざしています。



武田 真紀先生



コンサートに 参加して

阿部由佳梨さん

オーケストラの演奏はとても迫力があってすごく良かったです。自分たちがあの舞台上上がったときはとても感動しました。いろいろな人と共演できて良かったです。

西田さつきさん

オーケストラとの共演は一生に一度しかないと思い、弦楽器の音色も聴きながら自分も思いっきり歌いました。最後にお客さんに拍手をいっぱいもらえてうれしかったです。

秋成 澤君

最初は緊張していたけど、だんだん和らいできました。そして楽しく歌えたので良かったです。これからまたコンクールなどがあるので頑張っていきたいと思います。

■ お詫びと訂正 ■

議会便り57号で野球部の勝本鷹幸君の名前が慶幸君となっていました。お詫び申し上げます。

編集後記



平成23年は震災に明け暮れた年であった。今年こそは辰のように国民にとって希望の年であれと願うばかりである。

しかし、国政の方に目を向けると、社会保障維持のための増税は仕方ないと思うが、公務員改革や国会議員定数の削減など、自分の身を削る事が先であると思うが皆さんはどう思われますか。

本町では10数年前から給料カットや議員定数の削減など実施している。行革を実行しているのは末端の自治体だけで、国民は益々政治離れをして行くばかりである。

今年から議会だよりモニター制度を導入し、より良い広報誌をめざして頑張っていきたいと思っています。(雅)

